

(財) 骨髄移植推進財団について
《事務・事業説明資料》

法人概要

《基礎データ》

役員	【22年度】		【(参考)21年度】	
	常勤1人 非常勤23人	うち 国家公務員出身者	常勤1人 非常勤2人	常勤1人 非常勤2人
職員	92人	うち 国家公務員出身者	0人	0人
予算	15.5億円	うち 国からの財政支出	4.3億円	4.4億円

* 役職員数は平成22年4月1日現在、予算額は平成22年度の数値、
うち国家公務員出身者についてはそれぞれの年度の4月1日現在、
うち国からの財政支出についてはそれぞれの年度の数値

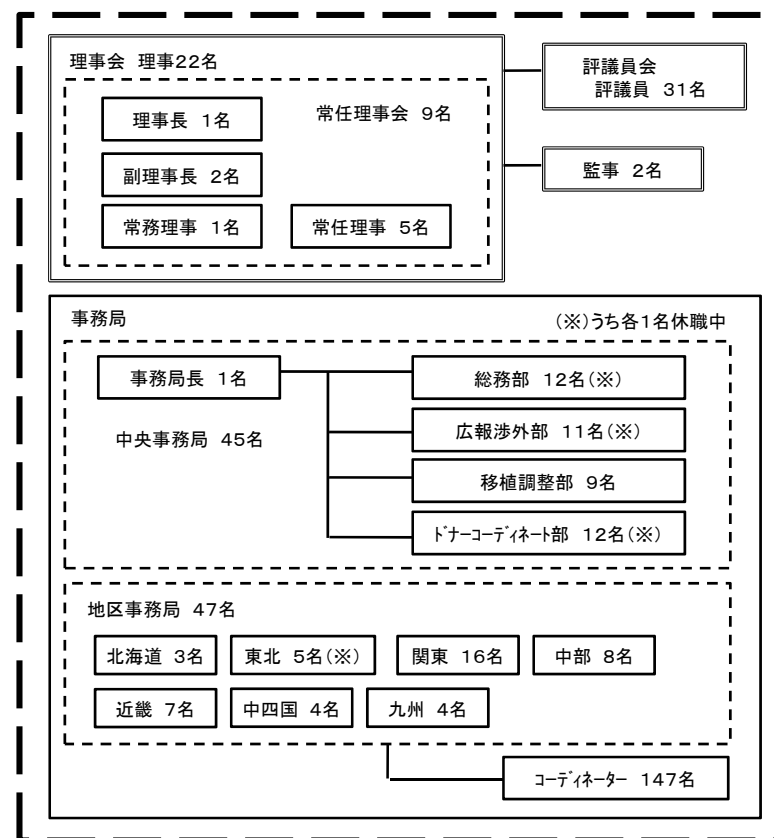
《主な事務・事業》

事務・事業	予算	うち国からの 財政支出
連絡調整等事業(補助)	11.9億円	3.5億円
普及啓発事業(補助)	2.3億円	0.2億円
低所得者対策事業(補助)	1.0億円	0.6億円

《組織体制》

〔法人に占める
管理部門の割合〕

			(全体)	13%
本部	4部 (45人)	うち管理部門 1部(12人)	27%	
地方	7地区事務局 (47人)	—	—	

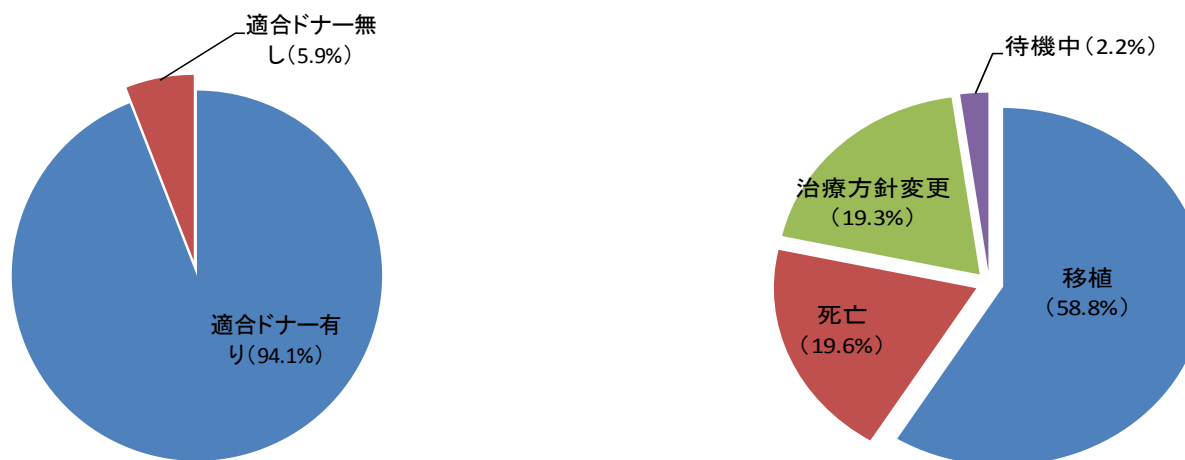


登録患者の状況及びドナー登録者数の国際比較

○骨髄バンク登録患者の状況

骨髄移植を希望して骨髄バンクに登録した患者のうち、移植に至るのは約6割。約4割は、移植ができずに登録を取り消しており、2割は治療方針の変更等、2割は死亡による取り消しとなっている。

【2007年に骨髄バンクに登録した患者1,692名の2010年3月末現在の状況】



○ドナー登録者数の国際比較

各国主要バンク	ドナー登録者数(A)	人口(B)	人口10万人当たり(A/B × 100,000)
アメリカ(NMDP)	5,817,350人	314.7百万人	1,849人
ドイツ(ZKRD)	3,939,538人	82.2百万人	4,793人
イギリス(アンソニーノーラン)	411,869人	61.6百万人	669人
日本(JMDP)	364,867人	127.6百万人	286人

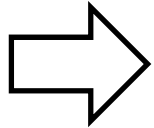
※ドナー登録者数:世界骨髄バンク(2010年8月末現在)。

※各国の人口:総務省統計局「世界の統計2010」より、2009年推計人口を利用。

連絡調整等事業

- 白血病等の治療に有効な骨髄移植を公平に実施するため、(財)骨髄移植推進財団が国内唯一のあっせん機関として、骨髄移植に係る連絡調整等を実施している。
- あっせん機関として、骨髄移植を円滑かつ公平に推進するために重要な役割を担っているコーディネーターは、平成22年4月時点で147人在籍（報酬は活動実績に応じて支給）。
- 本年10月より、腕の血液等から採取する末梢血幹細胞移植を段階的に導入する予定。

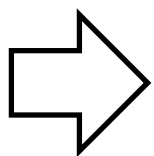
現状は



- コーディネート開始件数は、10,215件（21年度実績）で増加傾向。
- コーディネート期間（患者が骨髄バンクに登録してから移植を受けるまでの期間）は、142日（同上）で短縮傾向。

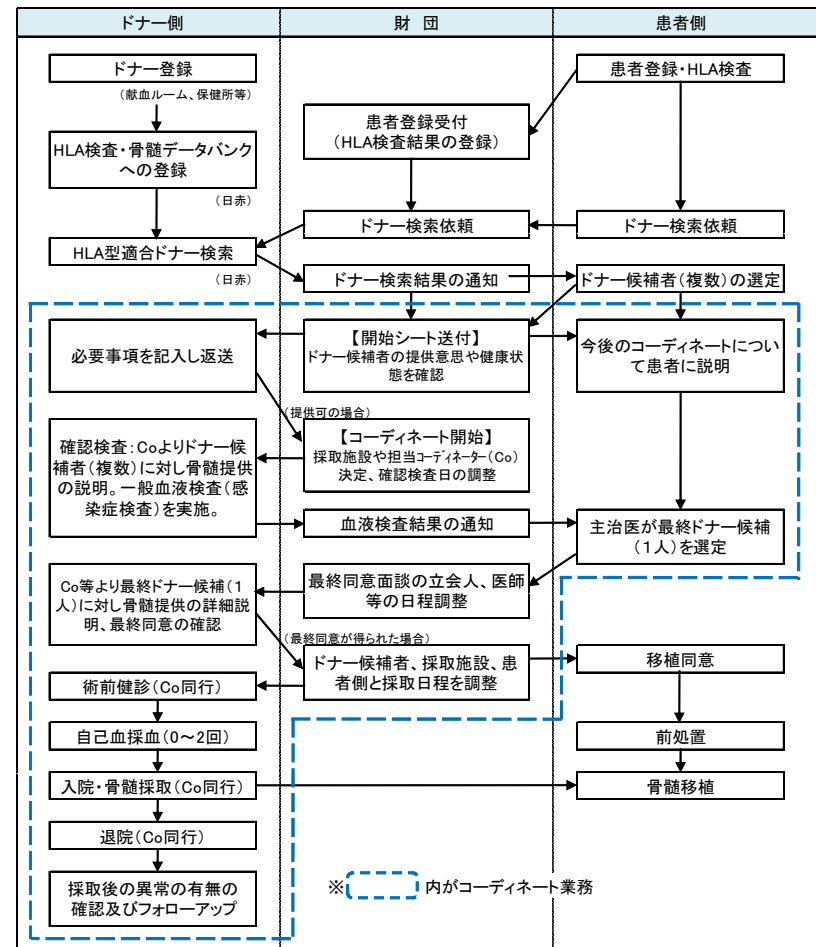
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
開始シート送付件数	19,413件	20,523件	21,952件	22,954件	24,021件
コーディネート開始件数	8,711件	8,888件	9,415件	10,128件	10,215件
移植実施数	851件	963件	1,027件	1,118件	1,232件
コーディネート期間(中央値)	150日	157日	150日	142日	142日

今後は



- ドナーの都合や医学的制約はあるものの、効率的な業務の実施により、コーディネート期間の短縮化を図る。
- 今後、末梢血幹細胞移植のコーディネートにも対応できるよう、研修を実施する。

<骨髄移植の流れ>



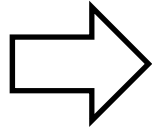
普及啓発事業

- 骨髄移植を受けるためには、患者と骨髄提供者のHLA型が適合することが必要であるが、非血縁者間でHLA型が一致する確率は数百分の1から数万分の1。
- 一人でも多くの患者が移植を受けられるよう、ドナー登録者数をさらに増やすことが必要であり、普及啓発は不可欠である。

《活動例（21年度）》

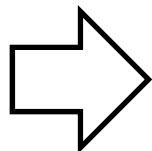
- ① ボランティアや日赤、自治体等と協力し、全国でドナー登録会（3,299回、登録者数21,618人）を実施。
- ② 全国の自動車教習所で骨髄バンクのPR映像を放映。また、ジャパンケーブルネットの協力によるPR（CMを4,700回放送）を実施。
- ③ ドナー経験者や元患者が学校や企業で講演する「語りべ等派遣事業」（134回）を実施。
- ④ 都道府県、市町村、保健所等においてパンフレット、リーフレットなどを配布。
- ⑤ 野球球団などのプロスポーツの協力により、ドナー登録会などのイベントを実施。

現状は



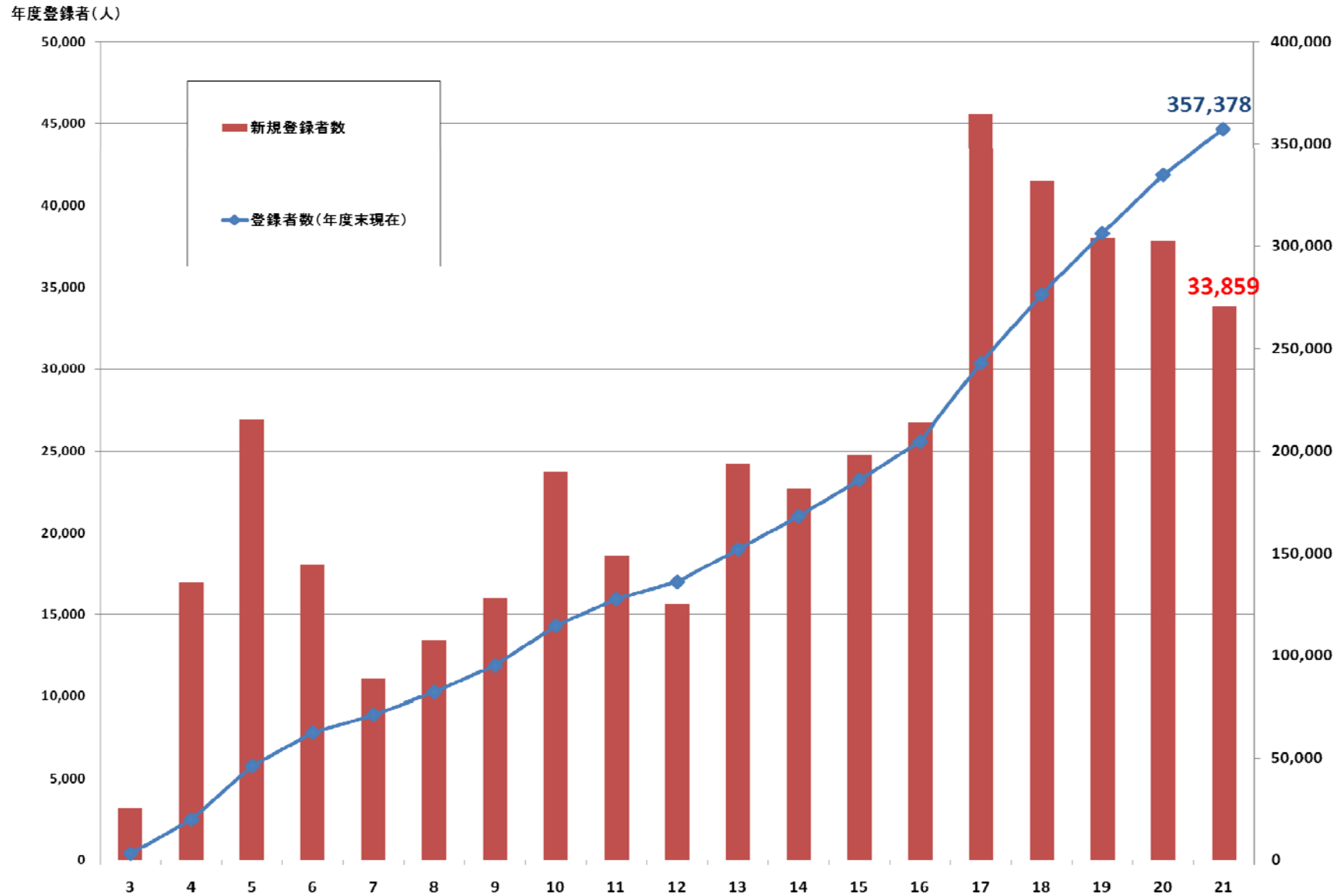
- 22年3月末時点のドナー登録者は35.7万人、21年度の新規ドナー登録者数は3.4万人。
- 骨髄バンクにより適合するドナー候補者が検索される率は約95%（平成21年実績。国内患者に限る）である一方、移植率（骨髄バンクに登録した年間患者数に対し、移植を受けられる率）は約6割にとどまる。

今後は



- 移植率を向上させるための方策を検討。
例）・ テレビ、ラジオ等を活用した広報によりドナー登録者数の増加を図る。
・ ドナー登録会でのアンケート調査の結果、登録者の確保には献血並行型登録会の開催が効果的であることが判明したため、献血並行型登録会の実施回数を増やしている。今後は更に、登録ドナーへの問診票送付に併せたアンケートの実施により、ドナー登録に至った動機等を分析し、より効果的な普及啓発を行っていく。
・ ドナーが提供しやすい環境を整えるため、末梢血幹細胞移植の導入により、ドナーの選択肢拡大やコーディネート期間の短縮を図る。

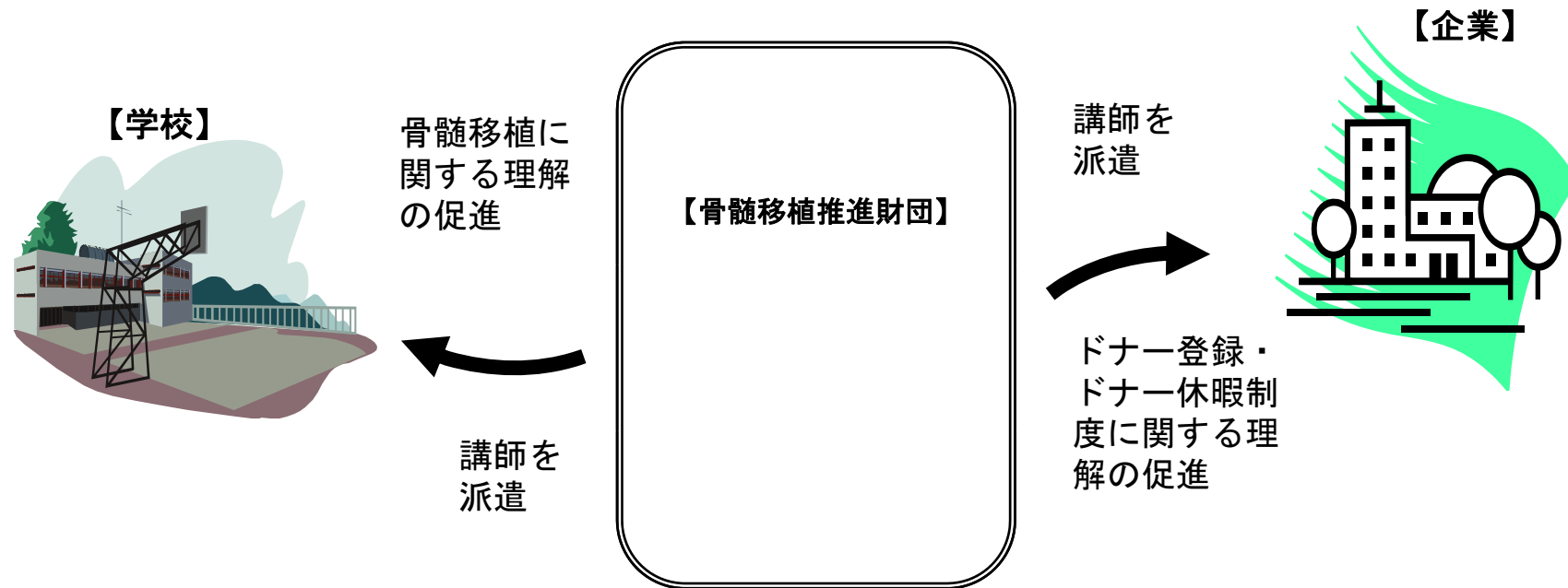
骨髄バンクドナー登録者の推移



※ (財)骨髄移植推進財団のデータより作成

語りべ等派遣事業について

骨髄バンクへの理解の促進やドナー登録者の拡大を図るため、学校や企業に骨髄移植を受けられた患者の方、骨髄提供されたドナーの方などを語り部として派遣し、自らの体験を語る講演会を実施している。



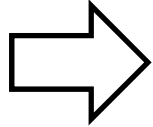
○平成21年度活動実績

	件数	人数
学校	82	14,190
企業	52	7,026
総計	134	21,216

低所得者対策事業

- 骨髄移植においては、患者1人当たり18.9万円の患者負担金が発生している。（ドナー候補者4人の確認検査を実施し、移植を行った場合）
- 本事業は、患者が生活保護世帯等であった場合に患者負担金の減免等を行うもの。

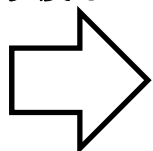
現状は



- 21年度に本制度を利用した患者は 782人（20年度654人）、減免金額は計84,002千円。
- 21年度に移植を受けた患者のうち 約3割が本制度を利用（移植実施数1,232件のうち、約390人）
（参考：患者負担金の推移）

14年4月～	563,000円
16年4月～	451,000円
17年7月～	271,000円
20年4月～	190,500円
21年10月～	189,000円

今後は



- 更なる患者負担金の軽減に取り組むとともに、本制度による低所得者支援を引き続き実施していく。

免除基準を適用する世帯	免除率	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
生活保護受給世帯 住民税非課税世帯 所得税非課税世帯	100%	334	324	324	349	410
所得税年額 16,800円以下の世帯	90%	51	45	44	73	94
所得税年額 42,000円以下の世帯	70%	53	65	59	114	128
所得税年額 80,000円以下の世帯	50%	89	85	90	118	150
合計（人）		527	519	517	654	782

費用負担の概要



患者登録

【患者負担】

○移植を受けた場合、18.9万円。

○ドナー確認検査まで行われたが、移植に至らない場合、7.4万円。

※いずれも4人のドナー候補者に確認検査を実施した場合

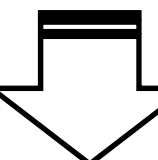
※参考 患者負担金の推移

14年4月～	563,000円
16年4月～	451,000円
17年7月～	271,000円
20年4月～	190,500円
21年10月～	189,000円

【骨髓移植推進財団】

医療保険

移植1件につき、84.8万円



【医療機関】

移植1件につき、45万円

【国】

補助金(429,212千円)
(あつせん業務関係事業費、あつせん事業体制整備費、普及啓発事業費等)

※補助金額は22年度予算額。